

部外秘	書写
-----	----

項目	観点	教科書名					
		新編 新しい 書写(2・東書)	みんなと学ぶ 小学校書写(11・学図)	小学生の書写(15・三省堂)	小学 書写(17・教出)	書写(38・光村)	小学書写(116・日文)
1 学習指導要領の教科の目標を達成するために取り扱う内容の選択について	○1, 2年では, 姿勢を正しくし, 文字の形, 大きさ配列などを理解して, 読みやすく書くことができるようにするために, どのように配慮されているか。	○画の方向を色線や赤丸で示しており,「おれ」や「はらい」をなぞることで,点画の長短や方向に気を付けて書けるよう配慮されている。 ○1年生スタートである自分の名前書きを縦書き, 2年生を横書きとし, 実際に則した配慮が感じられる。 ○筆順は示されているのはどの本も同様だが, 一画ごとに色分けしており, 普段の漢字指導と合わせてやると, やりやすい。 例 1画目…赤 2画目…青 3画目…緑 4画目…黄色 5画目…黒	○キャラクターのアドバイスを参考にすることで,学習のめあてを意識しながら点画の長短や方向に気を付けて書けるよう配慮されている。 ●1ページあたりの文字数が多い所があり, 少々読みにくい点がある。 ○点画の続き方がはっきりと示されているため, 違いに気付きやすく, 実践化に結び付きやすい。 ○「1のへや, 2のへや」というように1マスの中を4つに区分して配置を示している。 ○書き始める場所や向きが丁寧に示されている。	○点線で4分割されたマス目が多く設けられ,なぞり書きと練習を繰り返すことで,点画の長短や方向に気を付けて書けるよう配慮されている。 ○いろいろな線の書き方についての練習教材をまとめて掲載している本が多い中,「とめ, はね, はらい」などの基礎練習を, 題材ごとに分けており, 一つのことを丁寧に取り扱っている。	○大きな字を指でなぞったり,画の方向を示すイラストを参考にしたりすることで,点画の長短や方向に気を付けて書けるよう配慮されている。 ○1マスの中でどの位置に書くかが示され, 文字の配置, 配分が具体的にとらえやすい。 ○「とめ」を「ぴた」, 「はらい」を「すうっ」, 「はね」を「びょん」という音声で表している。	○各教材の学習のポイントを示すコーナーを参考にすることで,点画の長短や方向を理解して書けるよう配慮されている。 ○「とめ, はね, おれ, まがり, はらい」を象と兎のイラストで示し, 注意を促している。また, 「とめ」を「ぴたっ」, 「はらい」を「すうっ」, 「はね」を「びょん」, 「むすび」を「くるん」という音声で分かりやすく表している。 ○イラストの象と兎の動きに変化をもたせることで, 児童の興味をひき, 学習が楽しめる教材になっている。 ○字を書く姿勢や鉛筆の持ち方を写真とイラストで大きく示している。 ○色別筆順のように色が使われている。	○課題について考えたり確かめたりしてから書くような活動を繰り返すことで,点画の長短や方向を理解して書けるよう配慮されている。 ○「とめ」を「ぴたっ」, 「はらい」を「すうっ」という音声で表している。 ●色が濃く, 少々目にきつい印象をもつ。
	○3, 4年では点画の種類を理解するとともに毛筆を使用して筆圧などに注意して書くことができるようにするために, どのような配慮がされているか。	○朱淡2色の淡墨図写真やイラストに加え,トン, スー, ピタッという擬音語を用いて始筆・送筆・終筆のリズムを感覚的にとらえられるよう配慮されている。 ○始筆, 送筆, 終筆のそれぞれの穂先の動きが分かるように, 朱墨を使ったお手本を多用している。 ○国語教科書と同様に, ねらいとすることを明確に示し, 目標をはっきりもって振り返りができるように配慮している。	○太さの違う筆跡に言葉での説明と穂先の拡大写真やイラストを添えて,筆圧を視覚的にとらえられるよう配慮されている。 ○点画の交わり方で文字のどの部分でどのように交わるかやはらいの書き方などを, 拡大したり, 長さの配分を示したりしている。 ●始筆, 送筆, 終筆のそれぞれの筆圧が分かるような配慮が不足している。	○太さの違う線の写真と始筆と終筆の穂先のイラストを示し,力の加え方と線の太さの関係をとらえられるよう配慮されている。 ○始筆, 送筆, 終筆のそれぞれの穂先の動きが分かるように, 朱墨を使ったお手本で示している。 ○画の長さや方向が丁寧に示されている。 ○ひらがなの書き方のポイントを教科書の右端に配置している。(1ページに一事項で見やすい。)	○筆圧について,写真やイラストに加えて,強弱を記号, 数字を用いて表し,感覚的にとらえられるよう配慮されている。 ○「とん, すうっ, ぴた」という擬音語を用いて, 始筆, 送筆, 終筆のリズムを感覚的にとらえられるよう配慮している。 ○始筆, 送筆, 終筆のそれぞれの穂先の動きが分かるように, 朱墨を使ったお手本を多用している。 ○ひらがな, カタカナ, 漢字の筆使いのまとめを, 朱墨のお手本で提示している。 ○学習のめあてが明示され, 「考えよう」「ここが大切」という項目がある。	○太さの違う線の写真に,強弱を表す数字やキャラクターの吹き出しなどを加え,筆圧の違いを感覚的にとらえられるよう配慮されている。 ○始筆, 送筆, 終筆のそれぞれの穂先の動きが分かるように, 点画の重なりについても, 薄墨を使用している。 ○縦画と横画の書き方では, 始筆を「トン」, 送筆を「スー」, 終筆を「トン」という音声で力の入れ方を音声で表している。 ○はね, はらい, おれなどの仕組みについての説明が丁寧である。 ○「点画もけい」を組み立てて, 点画の重なりや穂先の方向について示している。	○始筆, 送筆, 終筆のそれぞれの穂先の動きが分かるように, 点画の重なりについても, 薄墨を使用している。 ●始筆,送筆,終筆のリズムは示されていない。
	○5, 6年では, 書く速さや穂先の動きを意識して書くことができるようにするために, どのように配慮されているか。	○全ての教材を朱淡2色の淡墨図写真や矢印を用いて示し,穂先の動きや点画のつながりを具体的にとらえられるよう配慮されている。	○教材の全ての文字の筆順や,次の点画へのつながりが分かる線や矢印を示し,穂先の動きを意識できるよう配慮されている。	○基本点画の穂先の動きを詳しく示し,筆順や墨継ぎについて取り上げ,書く速さと関連付けられるよう配慮されている。	○朱墨と薄墨の写真で示した教材と,筆使いの連続写真を用いることで,筆圧や穂先の動きが視覚的に理解できるよう配慮されている。	○点画のつながりを比較させるため朱墨と薄墨の写真を示したり, 穂先の動きを鳥のイラスト・点線で示したりすることにより, 視覚的に理解できるように工夫されている。	○朱墨と薄墨の写真を示し,書く速さや穂先の動きを意識できるよう配慮されている。

項目	観点	教科書名					
		新編 新しい 書写(2・東書)	みんなと学ぶ 小学校書写(11・学図)	小学生の書写(15・三省堂)	小学 書写(17・教出)	書写(38・光村)	小学書写(116・日文)
2 内容の 程度及 び取り扱 いについ て	＜基礎・基本のための定着の工夫＞ ○児童の発達段階に応じた字形の整え方については、どのような工夫が見られるか。	○「調べよう」「たしかめよう」で字形の整え方や筆使いのポイントを確認し、「広げよう」で硬筆練習ができるよう工夫が見られる。 ○硬筆では、1年生で点画・筆使い、2年生で字形、3～6年生で字形・配列、毛筆では3・4年生で点画・筆使い、4・5年生で字形、5・6年生で配列・点画のつながりに重点を置き、発達段階に応じて、書写の基礎・基本を反復しながら習得できるようにしている。	○文字の写真に学習のポイントが言葉と記号、補助線を使って書き込まれ、字形を視覚的に捉えられるよう工夫が見られる。 ○「ためし書き」から「まとめ書き」に至る学習過程が丁寧に示されている。	○穂先の向きや腕の動かし方を写真やイラストで示し、筆使いを視覚的にとらえられるよう工夫が見られる。 ○毛筆で文字を大きく書くことにより書字のポイントを理解し、それを硬筆で書いて確かめる活動を位置付けている。低学年の硬筆では指でなぞる活動を繰り返し設定し、毛筆では3年生で腕全体を動かすことに注意をうながしている。	○「ここが大切」では、文字の写真の説明や擬音語の吹き出しにより、筆使いや字形の整え方を感覚的にとらえられるよう工夫が見られる。 ○写真や図版を活用し、平易に解説するなど、子どもたちが見て分かり、実践できるようになっている。	○イラストや矢印、切り取りや重ね書き、部分どうしの色分けなど、筆使いや字形を視覚的にとらえられるような工夫が見られる。 ○2年生以上に「たいせつ」を設け、他の字を書くときにも活用できる基礎・基本を明確にしている。 ○毛筆学習の後には必ず硬筆による書き込み欄を設定し、身に付けた力を活用することができるように工夫されている。	○自黒と朱淡の2種類の淡墨図写真に記号や言葉で説明が添えられ、字形の整え方をとらえられるような工夫が見られる。 ○学習の途中で友達との話合いの場面を設定し、まとめ書きをするというように、考えながら学習できるようにになっている。 ○3年生以上の学年にも五十音表が掲載されている。
	＜関心・意欲を高め主体的な学習活動を促すための工夫＞ ○児童に用紙の規格、書式、筆記具について関心をもたせ、主体的な学習を促すために、どのような工夫が見られるか。	○筆記具の特徴を比較しやすい具体例を示した点や、観点ごとに2段階から選択することによって自己評価をしやすい点に工夫が見られる。 ○ローマ字や片仮名の練習欄があり、筆順を間違えやすい文字には、番号がふつてある。	○適切な筆記具の選択を促す児童作品を示した点や、顔のマークを書くことによって意欲的に自己評価できるようにした点に工夫が見られる。 ●硬筆で練習する書く欄が少ない。	○目的に応じた筆記具や用紙をまとめる表を示した点や、複数の観点を一文にまとめることにより自己評価をしやすい点に工夫が見られる。 ○発展的な学習内容の教材を設定し、興味関心に応じて学習できるようにしている。	○様々な筆記具を用いた身近な具体例を示した点や、観点ごとに3段階で記入することで自己評価をしやすい点に工夫が見られる。 ○「学習の進め方」を示すことで、子どもが見通しをもって学習に取り組めるようになっている。また、「自己評価欄」や「書き込み欄」を設定している。 ○子どもの発達段階に応じて「知りたい 文字の世界」では、文字の歴史などのテーマを設定している。	○生活や学習で見られる書式の具体例を示し、文字に対する関心を高める工夫が見られる。 ○全学年において親しみやすいイラストで学習の振り返りがあり、自己評価ができるようになっている。 ○2年生以上では、「もっと知りたい」のコーナーがあり、筆記具やさまざまな書体に関する知識を増やそうとする工夫が見られる。 ○4年生の巻末には、詳しいローマ字の表があり、5・6年生の巻末にも掲載されている。	○書式と筆記具を関連付けた具体例を示した点や、理解と技能の2つの観点により分かりやすく自己評価できるようにした点に工夫が見られる。 ○キャラクターによる支援、姿勢・執筆に関する写真やイラストの充実を図ったりするなど、児童の関心・意欲が高められるようにしている。
	＜個に応じた指導のための工夫＞ ○自分の課題の発見や学習が生活に生きるための教材については、どのような工夫が見られるか。	○学校生活における書く場面を取り上げ、目的や用紙に合わせた配列について複数の具体例を示し、作品づくりに生かせるよう工夫されている。	○毛筆で学んだことを、硬筆に生かす例を複数取り上げ、国語科と関連させたり、作品づくりに生かしたりできるよう工夫されている。 ○「硬筆に生かそう」では、好きな言葉を色画用紙に書くことや絵と組み合わせる願いを書くなど、生活に生かせるような例が挙げられている。	○書く目的にふさわしい筆記具と書き方について複数のページを使って説明し、学校生活に生かせるよう工夫されている。 ○「ひろげよう」では、白紙への書き方、ポスターの書き方、寄せ書きの書き方などがあり、多岐にわたっている。	○「トライアンドチャレンジ」のコーナーを設けたり、卒業記念品を複数示したりして、作品づくりに生かせるよう工夫されている。 ○4、5、6年生では「課題選択教材」を設けている。	○卒業記念品を複数取り上げたり、「資料」に手紙の書き方やノート工夫等を複数示したりして、作品づくりや生活に生かせるよう工夫されている。 ○「これまでに学習したことを生かして書こう」では、絵巻物や色紙、感謝状などがあり、発展学習として興味をもって取り組むことができる。 ○3年生以上の最終単元では、既習事項がまとめられており、1年間で学習した内容を確認することができる。また、自ら課題を発見し、主体的に解決する活動を設定している。	○目的や用紙に合った筆記具を見開き2ページで説明したり、卒業記念品を複数示したりして、作品づくりに生かせるよう工夫されている。 ●「広がる学び」では、ポスター、感想文、調査報告書の例が載っているが、硬筆が多く毛筆が少ない。

項目	観点	教科書名					
		新編 新しい 書写(2・東書)	みんなと学ぶ 小学校書写(11・学図)	小学生の書写(15・三省堂)	小学 書写(17・教出)	書写(38・光村)	小学書写(116・日文)
3 構成・配 列・分量	○教材構成・配列については、どのような特徴があるか。	○第3年生以上では学習内容によって単元を分け、単元と単元の間や巻末に、充実した資料や発展的な教材を配列している点に特色が見られる。	○全学年で学習内容によって単元を分け、筆記具や文字に対する関心を高める資料が充実している点に特色が見られる。 ○毛筆の学習を行い、その後「硬筆に生かそう」で、はがきやノートの学習を行う。	○学習内容をまとめた大きな単元を設定し、各単元の後や学年のまとめとして、発展的な教材を配列している点に特色が見られる。 ○「考えよう」で文字の書き方を考え、毛筆で確かめる。学習したことを「広げよう」で確かめながら書く学習をする。	○第3年生以上では学習内容によって単元を分け、筆記具の特徴や文字への関心を高める資料を配列している点に特色が見られる。 ○毛筆で学習したことを「生かそう」で硬筆の練習をする。さらに「チャレンジ」で横書きやはがきの書き方に生かす。	○学習内容をまとめた大きな単元を設定し、様々な書式の例や筆記具への関心を高める資料を巻末にまとめて配列している点に特色が見られる。 ○1教材1目標とし、学習を通して身に付けたい力を教材名としている。 ○巻末には、1年間で学習する漢字と、前学年で学習する漢字の一覧があり、4年生以上では、字形の整え方が明記されている。	○全学年に導入の単元とまとめの単元を設け、多くの単元の後には発展的な教材を配列している点に特色が見られる。 ○学習課題が明確化・焦点化されたシンプルな構成である。 ○毛筆学習の成果を硬筆によって確認する「いかす」とさらに文字の諸要素を分析的に学習する「なるほど書写教室」の硬筆教材が配置されている。
	○硬筆・毛筆の配列・分量にはどのような特徴があるか。	○単元の導入を硬筆で行い、毛筆教材の学習後に硬筆教材を設定することで、文字を書く基礎を身に付けられるようにした点に特色が見られる。 ○ねらいが細かく分かれていてくわしく練習できるようになっている。	○観点を細分化した硬筆教材を配列し、毛筆の筆使いを確かめやすいように紙面を構成している点に特色が見られる。 ○中学年では1文字に複数の指導事項をねらったものがある。	○硬筆教材は語句から短文、はがきやノートへと、毛筆での学習を段階的に日常生活に生かすことができるようにした点に特色が見られる。 ●毛筆の課題文字が比較的多く、形をとるのが難しい漢字を取り扱っている。	○硬筆教材を、毛筆の学習前後やまとめに配列することで、毛筆の学習を硬筆に生かすことを実感できるようにした点に特色が見られる。	○毛筆の特徴を生かした始筆の手本文字を示し、毛筆で学習したことを身に付けられるようにした点に特色が見られる。 ○同じ課題の文字が数多く載っていて、比べて書くことができる。	○毛筆と同じ硬筆教材や、フェルトペンの教材を配列し、毛筆で身に付けた筆使いを段階的に硬筆に生かせるようにした点に特色が見られる。 ○硬毛の一体化と充実が強化されている。
4 表現・表 記	○文字の濃淡、写真、イラスト、用語の表記等についてはどのような工夫が見られるか。	○第3年生以上では、全ての毛筆教材に朱淡2色の淡墨図写真を使い、朱線で穂先の動きを示す工夫が見られる。	○朱淡2色の淡墨図を使った連続写真や「かご書き」、「骨書き」により、筆使いのポイントを強調する工夫が見られる。	○単元名で学びのポイントを簡潔に示し、赤点線を入れた写真で筆使いを示す工夫が見られる。 ○見出しやアイコンを用いるなど、学習の流れとポイントを一目でとらえられるようにレイアウトが工夫されている。	○一番最初の教材で「点画の種類」を取り上げている。 ○朱墨と薄墨を使い、穂先の動き(向き、筆圧、筆の運び方)をイラストや写真を用いて、視覚的に示す工夫が見られる。 ○裏表紙には全学年で「鉛筆の持ち方」、3年生以上から「筆の持ち方」の写真を掲載している。	○朱淡2色の淡墨図写真を使い、穂先の動きや点画のつながりを青点線やイラストで視覚的に示す工夫が見られる。 ○空書きや点画シールの活用など体験的な学習を通して意欲を引き出し、直感的に理解できるようにしている。また、学習要素をイラストや図で示すことでイメージ化を図っている。 ○1～4年生の教科書では、イラストと写真、5・6年生の教科書では写真で文字を書くときの正しい姿勢を確認することができる。	○朱淡2色の淡墨図写真を使い、穂先の動きや点画のつながりを赤点線で、文字間を色丸で視覚的に示す工夫が見られる。
	○教材の字形・書体については、どのような工夫が見られるか。	○正しく整った明瞭な書体であり、硬筆の手本文字は太い線と細い線の2種類で書かれており、大きく示している点に工夫が見られる。 ○書風は健康的で明るく、濃度や筆圧にも気を配って書かれている。	○正しく整った明瞭な書体であり、硬筆の手本文字は横長で、毛筆楷書体の手本と並べて複数示している点に工夫が見られる。 ○とめ、はらいなどが強調された字形となっている。朱墨を使った穂先の運びが効果的である。	○正しく整った明瞭な書体であり、硬筆の手本文字は鉛筆で書かれた文字に近く、細めの線で縦長に示している点に工夫が見られる。 ○手書き文字に準拠した読みやすい教科書体を使用している。効果的な色使いで、カラーユニバーサルデザインにも配慮されている。	○正しく整った明瞭な書体であり、硬筆の手本文字は鉛筆で書かれた文字に近く、縦長で大きく示している点に工夫が見られる。 ○毛筆よりも硬筆に重点を置き、筆使いについて復習の形で取り上げ教材を掲載している。	○正しく整った明瞭な書体であり、硬筆の手本文字は、鉛筆で書かれた文字に近く、太めの線で大きく示している点に工夫が見られる。 ○基本的な書き方の教材を配列している。6年生では、さまざまな字形の教材を掲載している。	○正しく整った明瞭な書体であり、硬筆の手本文字は太い線と細い線の2種類で書かれており、縦長で大きく示している点に工夫が見られる。 ○教材に応じて半紙に横書きで書かせる工夫や、硬筆を数多く練習させる工夫がされている。

項目	観点	教科書名					
		新編 新しい 書写(2・東書)	みんなと学ぶ 小学校書写(11・学図)	小学生の書写(15・三省堂)	小学 書写(17・教出)	書写(38・光村)	小学書写(116・日文)
5 体裁使用上の便宜	○目次、書体、文字の大きさ、字間、行間、注記などについては、どのように配慮されているか。	○目次では単元名と学習内容の文字色を変え、アイコンと半紙の形で示し、学習内容に注目できるよう配慮されている。 ○毛筆教材部分は半紙の縦横比率に合わせている。そのため、実際の半紙に書いた手本に近い配列になっている。	○目次では単元名と発展教材や資料を色分けし、硬筆の練習には、鉛筆マークを付けるなど注目できるよう配慮されている。 ○見開き2ページの形で掲載されているものが4か所ある。	○目次では単元を線で囲み、発展教材を表すマークや学習の仕組みを示し、注目できるよう配慮されている。 ○字間と行間がゆったりしてゆとりをもってつくられている。 ●目次には学習する文字が掲載されていない。	○目次では学習のめあてを示し、単元名と硬筆学習の文字の大きさをえることで、注目できるよう配慮されている。 ○硬筆で縦書きと横書きがバランスよく配置されている。 ●原稿用紙の書き方などはやや文字が小さい。	○目次では各学年の単元名と学習内容を色分けして示し、学習の見通しをもてるよう配慮されている。 ○教材文字が半紙で書かれた形をとっている。書き方のガイドが子どもたちの目線で書かれている。 ○毛筆の教材文字には、バランスがとりやすいように中心の印がついている。	○目次では全学年で単元名を色分けし、本文中で使用するマークを説明して、注目できるよう配慮されている。 ○親しみやすいキャラクターがガイドする形で大切なところを説明している。
	○印刷、紙質、大きさ等については、どのように配慮されているか。	○B5判より横幅が広く、統一感のある色調で印刷され、学習の進め方がとらえられるよう配慮されている。 ○教科書サイズを横に広げて、インデックスを設けた。また、図番を大きくして資料性を高めたり、書き込み欄を充実させたりしている。 ●大きさが変形版(縦B5、横A4)のため、扱いにくい。	○B5判で、学年ごとに統一された鮮やかな色使いの印刷により、字形の特徴が視覚的にとらえられるよう配慮されている。 ○綴じ方(金具)に安全面での配慮が見られる。 ●書き初めの手本が小さい。紙質がやや白すぎる。	○B5判で、全体的に淡い色調で印刷され、教材の文字の黒色が引き立つよう配慮されている。 ●全体的に文字が小さい。	○B5判で、多色刷りで全体的に鮮やかな色調により、教材や解説が強調されるよう配慮されている。 ○表紙は全学年にわたり撥水コーティング加工を施しているため、水や墨汚れに強い。	○B5判で、統一感のある明瞭な色使いの印刷により、学習のポイントに注目できるよう配慮されている。 ○表紙には、防水効果があって汚れにくい、P. Pラミネート加工が施されている。 ○環境に配慮した紙、植物油インキが使用されている。	○B5判で、視覚的に明るい色使いの印刷により、学習内容に注目できるよう配慮されている。 ○植物油インキと再生紙を使用し、水や墨に汚れにくい表面加工がしてある。